

第1章

子ども・家族とのかかわり

田村 徳子



第1節

子どもと一緒に過ごす時間

◆平日に子どもと一緒に過ごす時間は東京がもっとも短い◆

4都市の父親に、平日に子どもと一緒に過ごす時間をきいた結果が、図1-1-1である。東京は「30分～1時間未満」(20.0%)、「1時間～2時間未満」(26.5%)の比率が高かった。ソウルは「1時間～2時間未満」(29.0%)、「2時間～3時間未満」(25.9%)の比率が高かった。北京と上海は似た傾向で、2時間以上子どもと過ごす比率が70%を超えた。

『幼児の生活アンケート 東アジア5都市調査 2010』(ベネッセ次世代育成研究所、2010)に東京、ソウル、北京、上海、台北の幼児(3～6歳)についての報告がある。これによれば、東京、ソウル、北京、上海の幼児の平均起床時刻はともに7時台、平均就寝時刻は21時台だった。一方、本調査で、父親が平均して仕事に出る時間はどの都市も7時台が多かったが、帰宅時間は差がみられ、東京20時台、ソウル19時台、北京と上海17時台の比率が高かった。東京の父親の約半数が、平日は、朝の仕事に出かけるまでの時間や、帰宅後から子どもの就寝までの合わせて30分から2時間未満の短い時間を子どもと一緒に過ごしている様子がうかがえる(詳細はp.128参照)。

◆休日に子どもと一緒に過ごす時間は、東京がもっとも長い◆

休日についてもきいたところ(図1-1-2)、東京とソウルは「10時間～ほぼ1日」(東京52.2%、ソウル48.4%)の比率が高く、北京と上海は「3時間～4時間未満」から「10時間～ほぼ1日」に回答が分散した。東京とソウルの父親は、平日に子どもと一緒に過ごす時間が少ない分、休日に集中して過ごすようにしているのではないだろうか。

◆どの都市でも平日は、実際より長く子どもと一緒に過ごしたい◆

平日に子どもと一緒に過ごす時間について、理想をきいた(図表省略)。東京は「1時間～2時間未満」(24.0%)、「2時間～3時間未満」(34.7%)、ソウルは「2時間～3時間未満」(29.3%)、「3時間～4時間未満」(24.5%)が多かった。北京と上海は「5時間～10時間未満」(北京24.9%、上海22.9%)がもっとも多かった。平日の場合、どの都市も、実際に過ごしている時間より長く子どもと一緒に過ごすのが理想のようだ。

休日の場合、理想はどの都市も「10時間～ほぼ1日」と回答した比率が半数前後であった。東京とソウルは、現状とほぼ変わらず、休日はほぼ理想どおりの時間、子どもと一緒に過ごさせているようである。一方、北京と上海は、理想と現状に15ポイント以上の差があり(北京:理想49.8%、現状34.0%、上海:理想46.3%、現状30.8%)、休日にはもっと子どもと一緒に過ごしたいようである。

図1-1-1 平日に子どもと一緒に過ごす時間

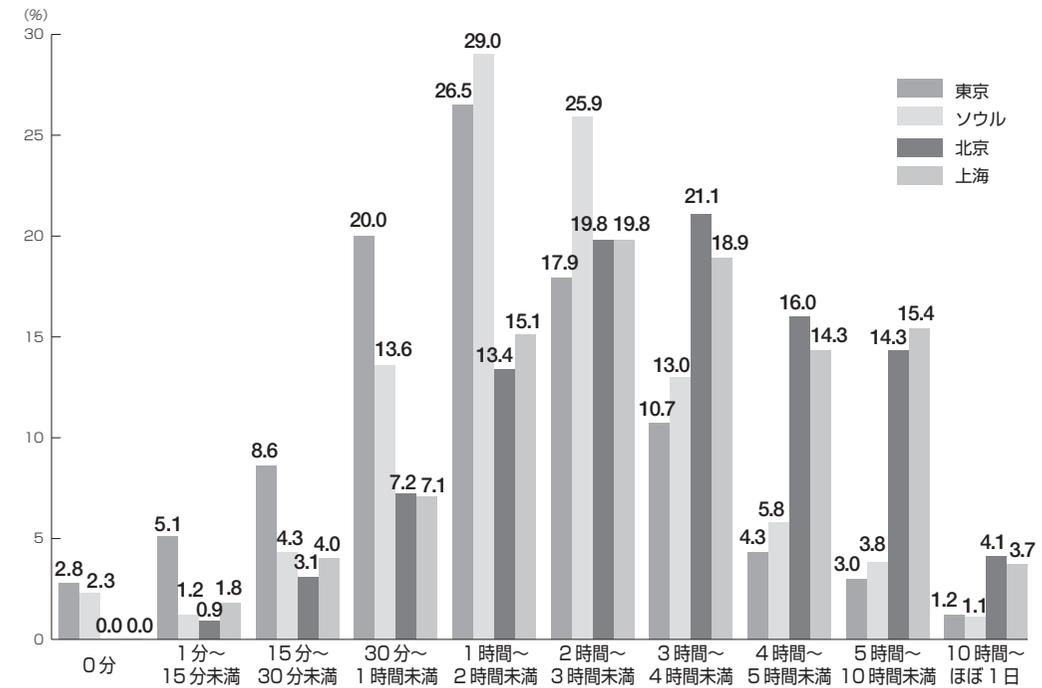
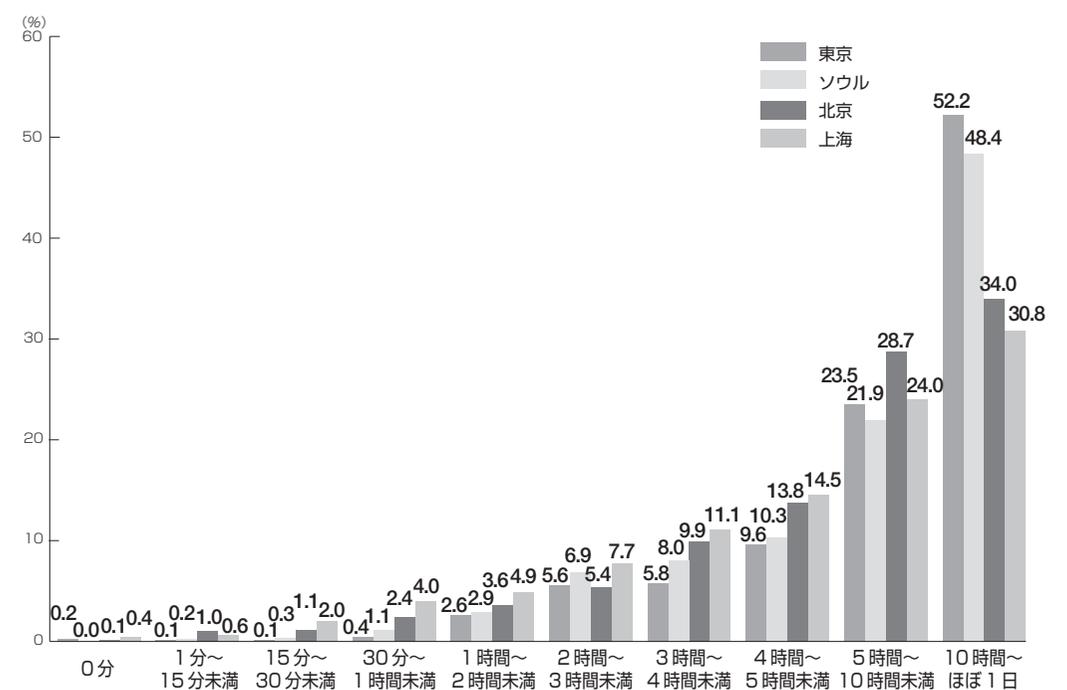


図1-1-2 休日に子どもと一緒に過ごす時間



第2節

家事・育児の実態

◆家事では、食事のしたくや後片付け、掃除をする頻度が北京と上海で高く、東京で低い◆

父親が家事・育児にかかわる頻度は、妻の仕事の有無も関連すると思われるので、あらかじめ確認しておきたい。妻の有職率は、東京36.5%、ソウル46.2%、北京89.4%、上海94.4%だった(p.90 基本属性を参照)。

4都市の父親に、家事5項目について、行う頻度を4段階で聞いた(図1-2-1~5)。

共通していたのは、ごみ出しと買い物の2項目だった。「ごみを出す」頻度は、「いつもする」と「ときどきする」を合わせて、東京75.8%、ソウル86.7%、北京88.1%、上海88.4%と、どの都市でも7割以上の父親が行っていた。また、「買い物をする」頻度は、まとめ買いをする場合も考えると「ほとんど毎日する」から「週に1~2回する」で、東京83.9%、ソウル87.9%、北京92.2%、上海93.7%と8割以上の父親が取り組んでいた。

差がみられたのは、食事のしたく、後片付けと掃除の3項目で、とくに東京の父親の行う頻度が低く、北京と上海の父親の行う頻度が高い傾向にある。まず、毎日行われる食事について比べたい。「ほとんど毎日する」から「週に1~2回する」でみると、「食事のしたくをする」頻度は、東京39.1%、ソウル63.7%、北京79.1%、上海78.0%と東京はほかの都市に比べて20ポイント以上低く、「食事の後片付けをする」頻度は、東京68.5%、ソウル80.8%、北京86.1%、上海85.4%と東京が10ポイント以上低かった。次に、掃除を比べたい。家庭によって頻度が異なるが、乳幼児のいる家庭で、掃除は重要な家事の1つといえよう。同様に「ほとんど毎日する」から「週に1~2回する」でみると、「掃除をする」頻度は、東京54.5%、ソウル82.5%、北京84.9%、上海84.8%と、東京はほかの都市に比べて20ポイント以上低かった。

さらに、東京について妻の仕事の有無別でみると(「ほとんど毎日する」から「週に1~2回する」の比率)、「食事のしたくをする」(妻仕事あり46.5%、妻仕事なし34.7%)、「掃除をする」(妻仕事あり62.2%、妻仕事なし50.1%)であり、妻の仕事の有無にかかわらず、ほかの都市に比べて、父親の行う頻度が低かった(妻仕事あり585人、妻仕事なし1,017人)(図表省略)。東京の父親は全体的に、食事や掃除など日々の家庭を維持していく家事を妻によるところが大きい傾向がうかがえる。

図1-2-1 ごみを出す

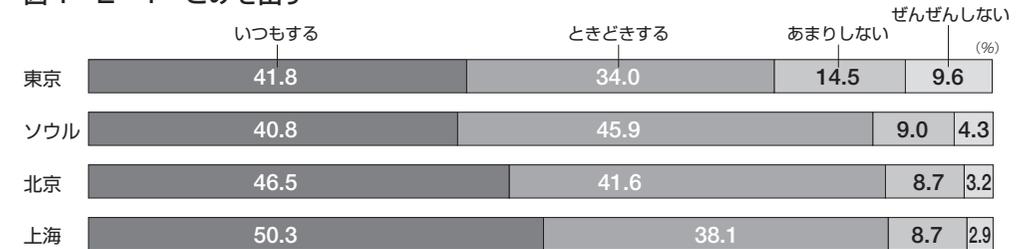


図1-2-2 買い物をする

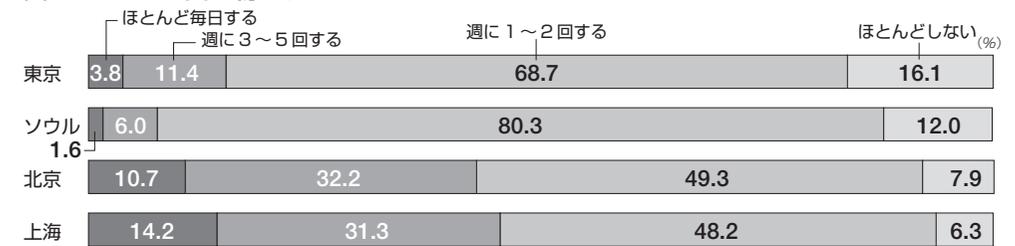


図1-2-3 食事のしたくをする

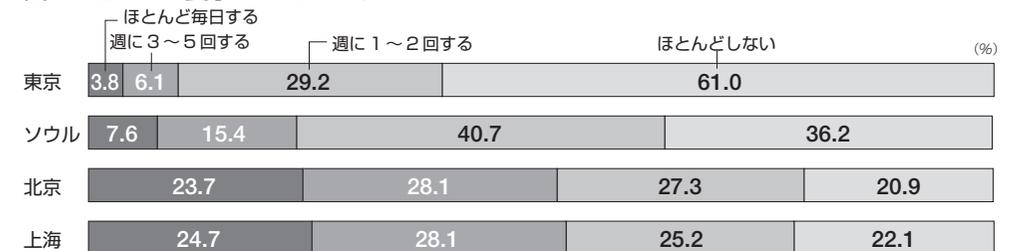


図1-2-4 食事の後片付けをする

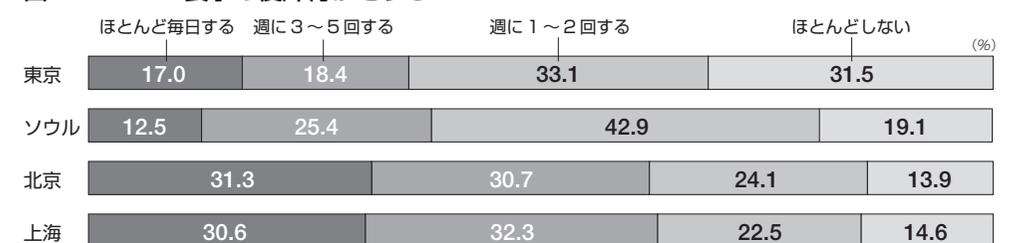
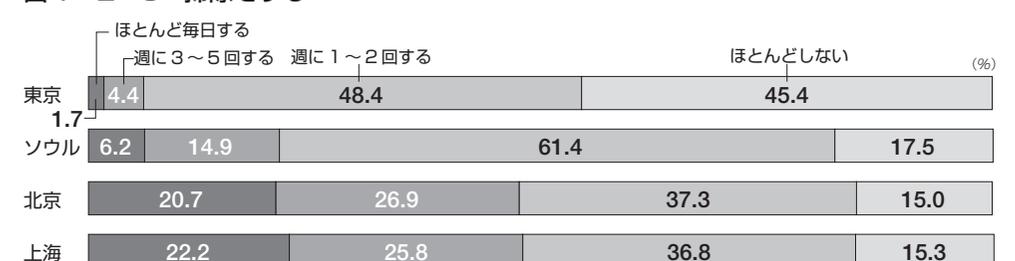


図1-2-5 掃除をする



◆日々の育児では、東京はお風呂に入れる頻度、北京と上海は子どもと遊ぶ頻度が高い◆

育児を行う頻度はどうだろうか。日々の育児に関する項目について、「ほとんど毎日する」と「週に3～5回する」を合わせた頻度をみてみたい(図1-2-6～9)。「お風呂に入れる(北京・上海は「シャワーに入れる)」頻度は、東京42.0%、ソウル29.6%、北京40.9%、上海48.3%だった。「週に1～2回する」頻度を加えると、東京は92.6%に達した。一方、「子どもを寝かしつける」の頻度は、東京29.0%、ソウル41.4%、北京53.5%、上海58.1%、「子どもと一緒に室内で遊ぶ」頻度は、東京44.5%、ソウル66.8%、北京79.6%、上海81.2%、「子どもと一緒に外で遊ぶ」頻度は、東京4.6%、ソウル10.7%、北京50.7%、上海50.4%と、北京と上海が高く、次いでソウル、東京の順だった。「子どもと一緒に外で遊ぶ」項目は、「週に1～2回する」頻度が東京78.2%、ソウル69.3%と高く、平日は子どもと一緒に外で遊ぶ時間に帰宅できるかによるだろう。第1節でみたように、東京とソウルの父親は、平日に子どもと一緒に過ごす時間は、東京で30分～2時間未満、ソウルで1時間～3時間未満が多かった。短い時間しか子どもと一緒に過ごせない東京の父親にとって、「お風呂に入れる」ことは子どもとしかかわる大切な機会となっているのではないか。また、北京と上海の父親は、子どもと一緒に過ごす時間が比較的長い中で、子どもと遊んでいる様子が見えがえた。

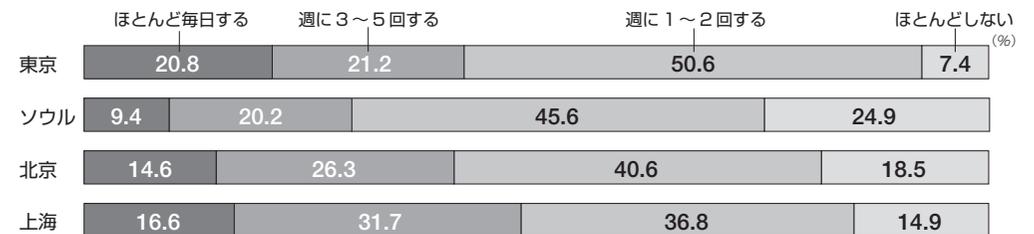
◆東京の父親は、子どもがぐずったときのなだめや病気の面倒など、少し時間を要するものを行う頻度が少ない◆

少し手間のかかる育児について、「ほとんど毎日する」または「いつもする」頻度をみよう(図1-2-10～12)。「子どもを叱ったり、ほめたりする」は東京がやや高く、35.0%だった。「子どもがぐずったときになだめる」頻度は、東京24.2%、ソウル40.0%、北京50.8%、上海51.6%、「子どもが病気のとき、面倒を見る」頻度は、東京19.0%、ソウル35.9%、北京60.1%、上海61.2%と、北京と上海で5～6割を超え、次いでソウル、東京の順だった。東京の父親は「子どもを叱ったり、ほめたりする」など、子どもの行動に短い時間で対応するものは行っているのだが、なだめたり、病気のときの面倒など時間や工夫を必要とする対応は頻度が低い傾向にあるようだ。

◆北京と上海の父親は、「園への送迎」頻度が高く、東京の父親は「園の行事への参加」頻度が高い◆

各都市で園に関する諸制度や形式が異なるため、直接比較することは難しいが、各都市の父親の園とのかかわりをおさえておきたい。園に通う子どもを持つ場合のみ、園への送迎や行事への参加について回答してもらった(図1-2-13・14)。「いつもする」と「ときどきする」を合わせた頻度でみてみたい。「幼稚園・保育園への送迎をする」頻度は、東京は54.3%、ソウルは47.5%、北京88.4%、上海88.3%だった。父親が送迎する頻度は父親が仕事に出る時間や、通園の時間の影響もあると思われる。「幼稚園・保育園の行事に参加する」頻度は、東京は84.7%、ソウルは65.9%、北京75.3%、上海79.0%だった。

図1-2-6 子どもをお風呂に入れる



注) 北京・上海は「シャワーに入れる」。

図1-2-7 子どもを寝かしつける

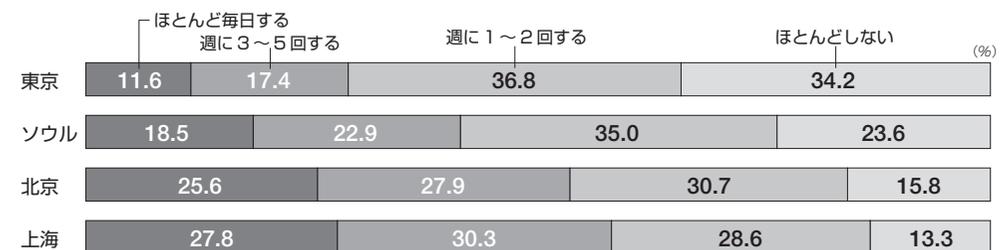


図1-2-8 子どもと一緒に室内で遊ぶ

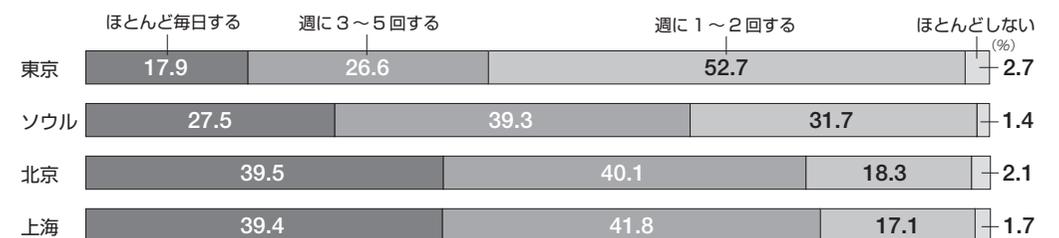


図1-2-9 子どもと一緒に外で遊ぶ

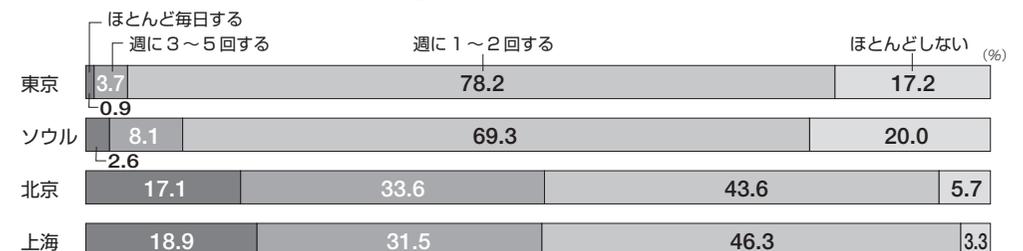
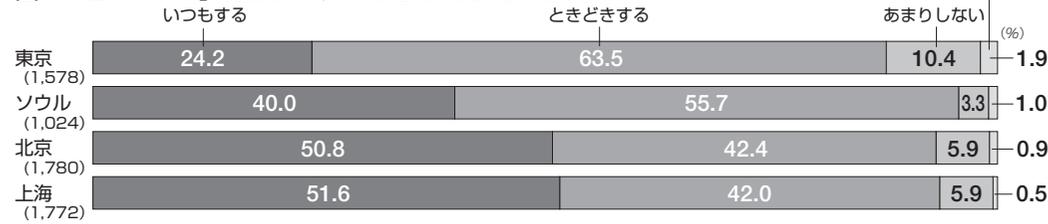


図1-2-10 子どもを叱ったり、ほめたりする



図1-2-11 子どもがぐずったときになだめる



注1) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-2-12 子どもが病気のとき、面倒を見る

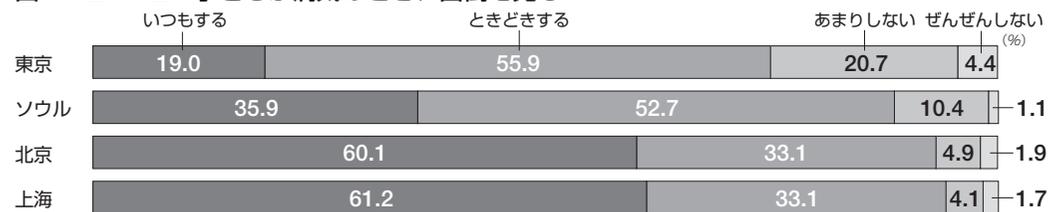
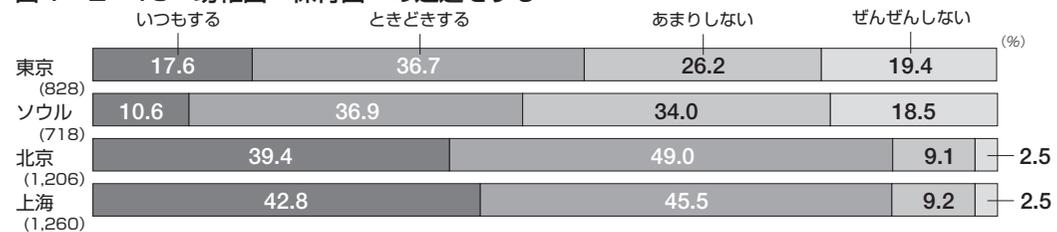
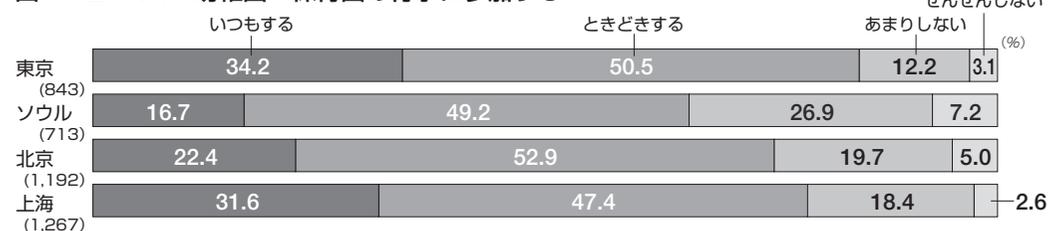


図1-2-13 幼稚園・保育園への送迎をする



注1) 調査票では、園の名称を各都市の制度に合わせて変更している。
注2) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注3) ()内はサンプル数。

図1-2-14 幼稚園・保育園の行事に参加する



注1) 調査票では、園の名称を各都市の制度に合わせて変更している。
注2) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注3) ()内はサンプル数。

◆今以上にかかわりたい家事・育児は、どの都市の父親も、種類を広げるのではなく、今行っているものをもっとやりたい傾向◆

では、家事・育児への意向はどうか。「あなたは、家事や育児に、今以上にかかわりたいと思いますか」という設問に「はい」と答えた父親に対して、「今以上にかかわりたい項目」を16項目から3つまで選んでもらった。4都市で比べたものが表1-2-1である。どの都市も「子どもと一緒に外で遊ぶ」「子どもと一緒に室内で遊ぶ」が第1位、第2位だった。次いで、東京は「子どもをお風呂に入れる」「子どもを叱ったり、ほめたりする」「幼稚園・保育園の行事に参加する」、ソウルは「幼稚園・保育園の行事に参加する」「子どもをお風呂に入れる」「子どもを叱ったり、ほめたりする」「子どもを寝かしつける」、北京と上海は「買い物をする」「子どもが病気のとき、面倒を見る」「子どもがぐずったときになだめる」だった。どの都市の父親も、子どもと一緒に遊びたいということが第1の願いであり、それ以外は行っていない家事・育児に手を広げるのではなく、今行っている家事・育児をもっと行いたいという傾向がみられた。

表1-2-1 もっとかかわりたいと思っている家事・育児

	東京 (888)	ソウル (718)	北京 (1,596)	上海 (1,658)
買い物をする	8.4	15.0	③23.1	④24.2
食事のしたくをする	14.8	12.5	18.4	17.0
食事の後片付けをする	7.8	11.3	10.3	9.2
掃除をする	8.4	12.4	9.6	8.4
ゴミを出す	2.3	4.9	4.4	3.5
子どもと一緒に外で遊ぶ	①72.6	①75.8	①65.9	①62.4
子どもと一緒に室内で遊ぶ	②41.6	②40.8	②39.2	②41.1
子どもをお風呂に入れる	③30.7	④24.9	7.8	10.3
子どもを叱ったり、ほめたりする	④29.5	⑤16.3	18.6	16.0
子どもを寝かしつける	13.0	⑤16.3	12.9	16.5
子どもが病気のとき、面倒を見る	12.5	6.5	⑤21.4	③27.4
子どもがぐずったときになだめる	7.5	6.4	④21.9	⑤22.4
おむつをかえる	2.6	3.5	1.8	1.4
幼稚園・保育園の行事に参加する	⑤17.2	③28.1	14.2	17.2
幼稚園・保育園への送迎をする	8.9	15.6	13.3	11.4
その他	1.0	2.2	0.1	0.0

注1) 「あなたは、家事や育児に、今以上にかかわりたいと思いますか」に「はい」と答えた父親を対象とする。
注2) 複数回答 (3つまで)。
注3) 調査票では、園の呼称を各都市の制度に合わせて変更している。
注4) ()内はサンプル数。

第3節

妻とのかかわり

◆妻と毎日話す割合は、4都市とも7割以上。ただし、東京の夫は「自分の仕事・生活上の悩みを相談する」割合が、とりわけ低い◆

この報告書では回答者を「父親」と呼んでいるが、3、4節では、配偶者（妻）との関係をきいているため、回答者を「夫」、配偶者を「妻」と記述したい。

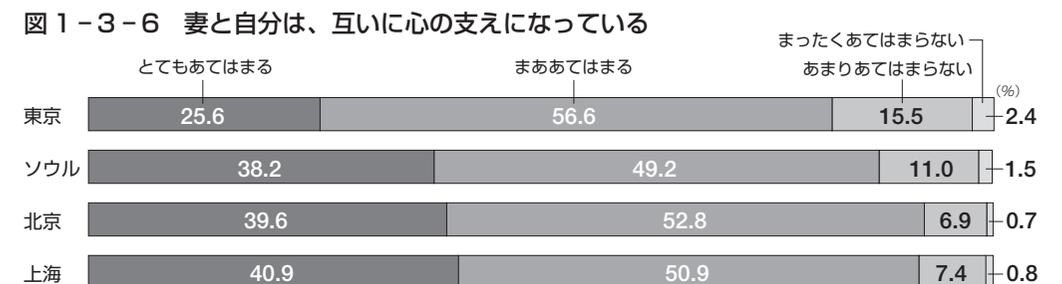
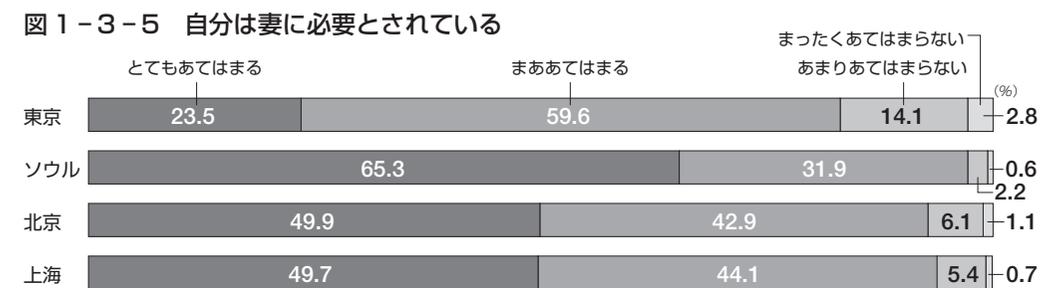
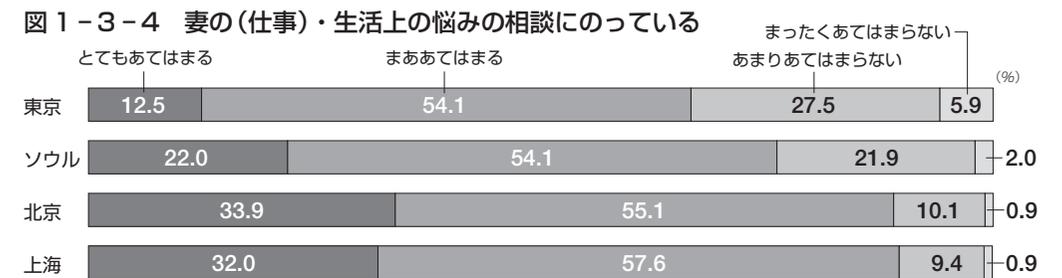
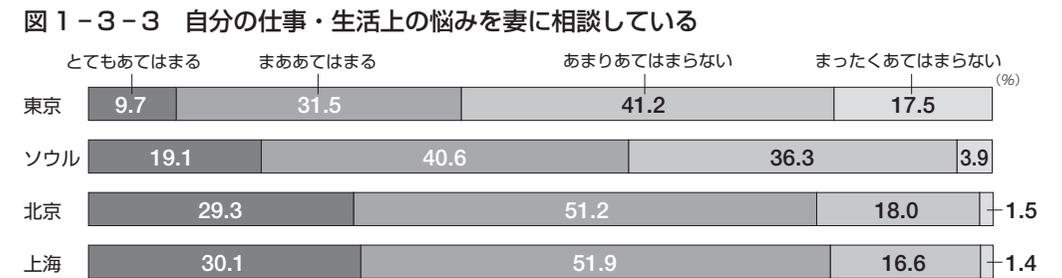
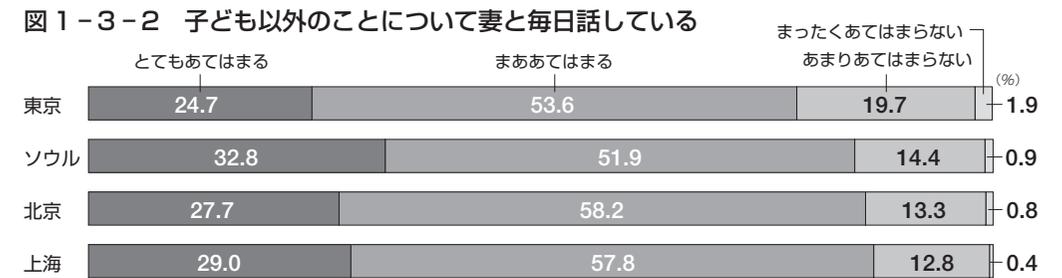
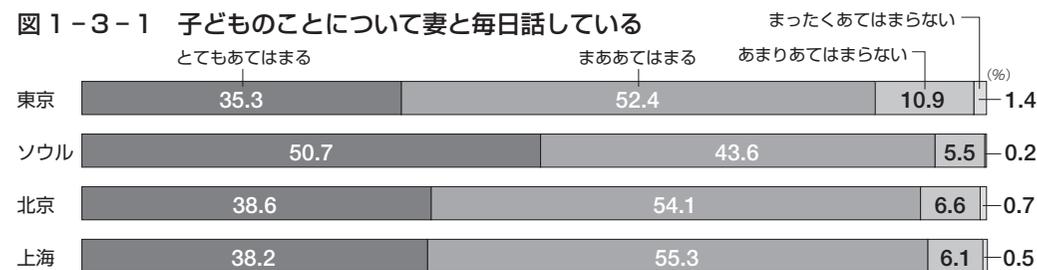
夫と妻のコミュニケーションの実態と意識について、4段階できいた。実態についての4項目を「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合わせた比率でみてみたい。

4都市で共通していたのは、妻と毎日話す比率だった（図1-3-1・2）。どの都市も、「子どものことについて妻と毎日話している」「子ども以外のことについて妻と毎日話している」が7割以上だった。

差がみられたのは、妻と相談する比率である（図1-3-3・4）。「自分の仕事・生活上の悩みを妻に相談している」は、東京41.2%、ソウル59.7%、北京80.5%、上海82.0%と、東京の夫はソウルの夫と比べて18ポイント以上、北京と上海の夫と比べて39ポイント以上低かった。4都市とも「妻の（仕事）・生活上の悩みの相談にのっている」より自分の悩みを妻に相談する比率のほうが低かった。

◆東京の夫は、妻に必要とされている比率や互いに心の支えになっている比率も低い◆

「自分は妻に必要とされている」「妻と自分は、互いに心の支えになっている」についてはどうだろうか。「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合わせた回答比率でみると、「自分は妻に必要とされている」は、東京83.1%、ソウル97.2%、北京92.8%、上海93.8%と、どの都市でも8割を超えるが、東京はほかの都市に比べて約10ポイント低かった。また、「妻と自分は、互いに心の支えになっている」も、東京82.2%、ソウル87.4%、北京92.4%、上海91.8%と、どの都市でも8割を超えるが、東京の比率がやや低かった（図1-3-5・6）。



東京の夫は妻と、子どもや子ども以外のことで話しているが、自分の仕事や生活上の悩みの相談をする比率がほかの都市より低く、妻に必要とされている意識や互いに心の支えになっているという意識もほかの都市と比べてやや低い様子がうかがえた。

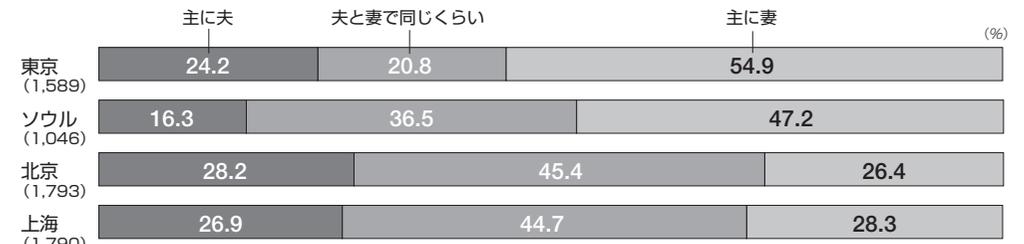
◆**子どもの身の回りのものを選ぶときの最終決定は、東京とソウルは「主に妻」が多く、北京と上海は「夫と妻で同じくらい」が多い**◆

子どもが誕生し、心身ともに成長していくのにもない、子どもの身の回りのものやおもちゃ、絵本などを用意したり、習い事を選んだりしていく状況が考えられる。そのとき、夫と妻のどちらが最終決定をするのだろうか。また、4都市でどのような特徴があるだろうか。

まず、「家計全般の管理」をみてみたい(図1-3-7)。東京とソウルは「主に妻」がもっとも多かった(東京54.9%、ソウル47.2%)。一方、北京と上海は「夫と妻で同じくらい」がもっとも多かった(北京45.4%、上海44.7%)。

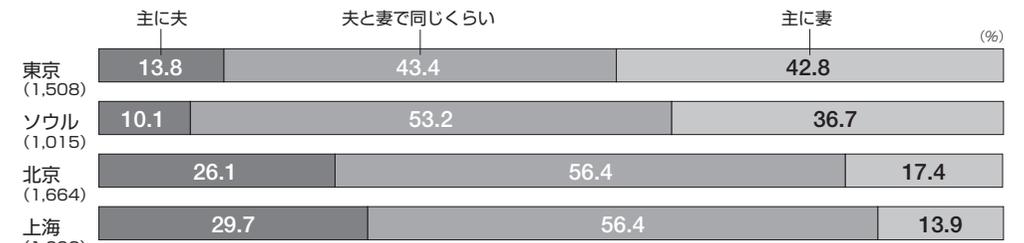
子どもの身の回りのものについてはどうだろうか(図1-3-8~10)。東京とソウルでは「ベビーカーを選ぶ」ときに、夫の比率が少し高くなるが(「主に夫」東京13.8%、ソウル10.1%)、「子どもの洋服を選ぶ」「家の日用品等(紙おむつ、洗剤など)の管理」は、主に妻が決める比率が高かった(子どもの洋服を選ぶ:「主に妻」東京81.0%、ソウル75.2%、家の日用品等の管理:「主に妻」東京79.4%、ソウル63.6%)。北京と上海では、「ベビーカーを選ぶ」のは、半数以上が「夫と妻で同じくらい」だった(北京56.4%、上海56.4%)。「子どもの洋服を選ぶ」「家の日用品等の管理」は、「主に妻」が決める比率がもっとも高いものの、東京とソウルに比べてより夫が決定する様子がみられ、「主に夫」が1割以上、「夫と妻で同じくらい」が3割以上だった。

図1-3-7 家計全般の管理



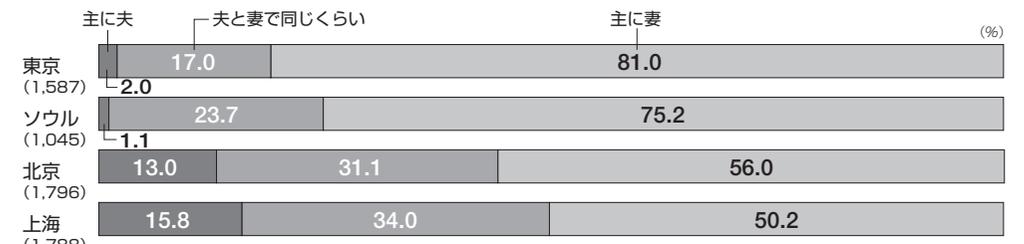
注1) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-8 ベビーカーを選ぶ



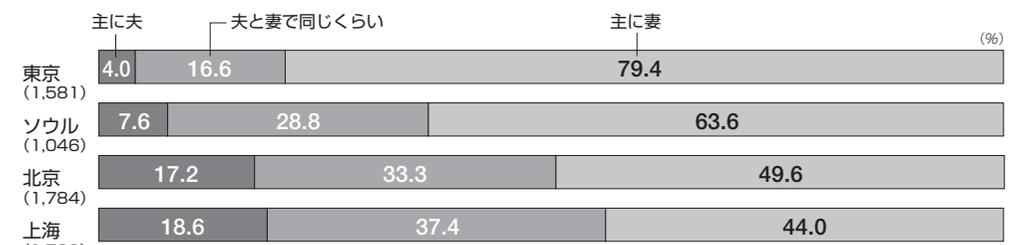
注1) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-9 子どもの洋服を選ぶ



注1) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-10 家の日用品等(紙おむつ、洗剤など)の管理



注1) 「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

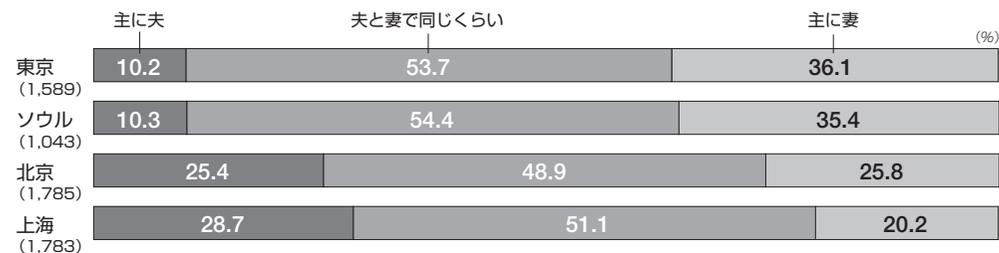
◆絵本やワークブック、習い事を選ぶのは、東京とソウルでは主に妻だが、
TVゲームやビデオ・DVDは夫の出番も。北京と上海では、項目による差は少ない◆

子どものおもちゃや絵本、ビデオ・DVD、習い事を選ぶときなどはどうか(図1-3-11~16)。おおまかにいえば、東京とソウルが似た傾向、北京と上海が似た傾向だった。

東京とソウルでは、全般的に最終決定で「主に妻」が選ぶ傾向が高いが、項目により異なる様子がうかがえた。「おもちゃを選ぶ」「子ども向けのTVゲームを選ぶ」「子ども向けのビデオ・DVDを選ぶ」とき、「夫と妻で同じくらい」か、「主に夫」の選ぶ比率がやや大きくなる。「おもちゃを選ぶ」をみると(図1-3-11)、半数以上が「夫と妻で同じくらい」と回答し(東京53.7%、ソウル54.4%)、約1割が「主に夫」と回答した(東京10.2%、ソウル10.3%)。一方、「絵本や本を選ぶ」「ワークブックを選ぶ」「習い事を選ぶ」のは、夫の比率は少なくなり、「主に妻」が選ぶ比率が高かった。「絵本や本を選ぶ」をみると(図1-3-14)、「主に妻」が6割以上を占めた(東京61.1%、ソウル66.3%)。東京とソウルの夫はデジタルに関するものだと、出番が増えるのだろうか。

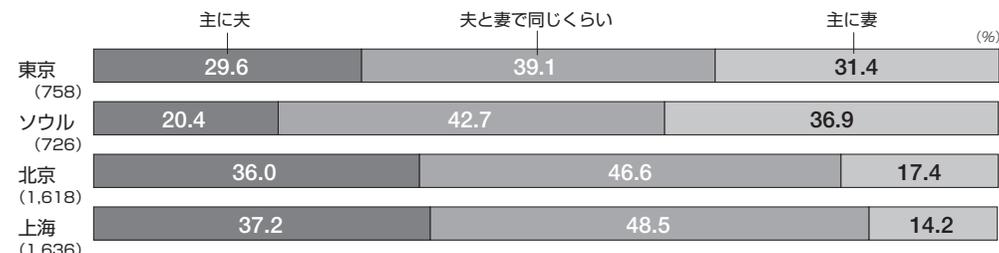
北京と上海では、項目による差は少なく、「夫と妻で同じくらい」がどの項目も半数近くだった。とくに、「習い事を選ぶ」ときに、「夫と妻で同じくらい」であると回答した人は、北京59.4%、上海62.1%と高い比率で行われている様子が見えたと(図1-3-16)。

図1-3-11 おもちゃを選ぶ



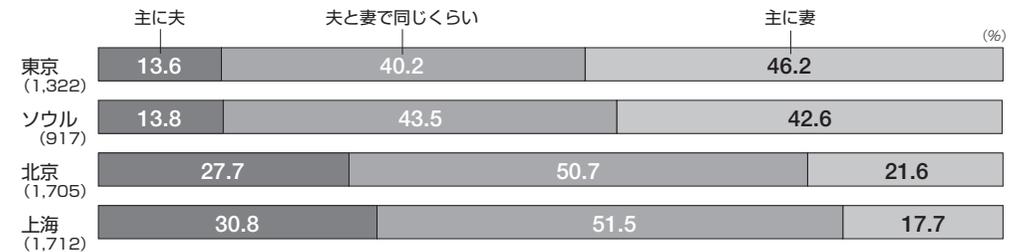
注1)「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-12 子ども向けのTVゲームを選ぶ



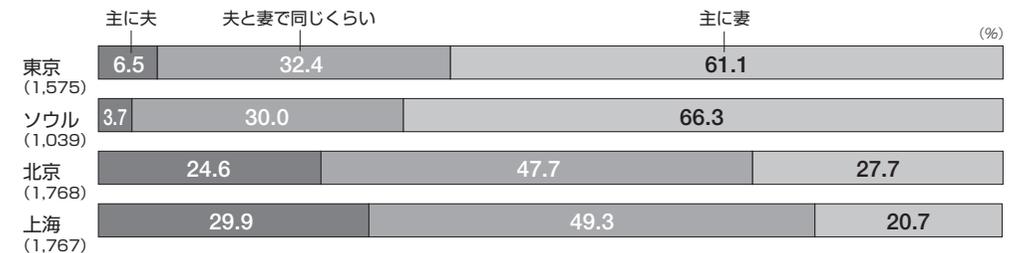
注1)「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-13 子ども向けのビデオ・DVDを選ぶ



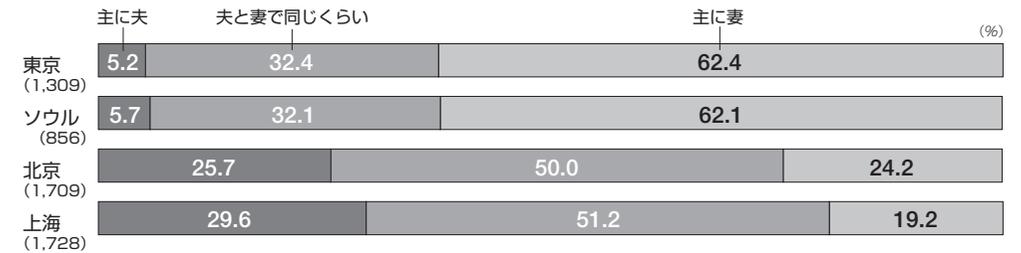
注1)「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-14 絵本や本を選ぶ



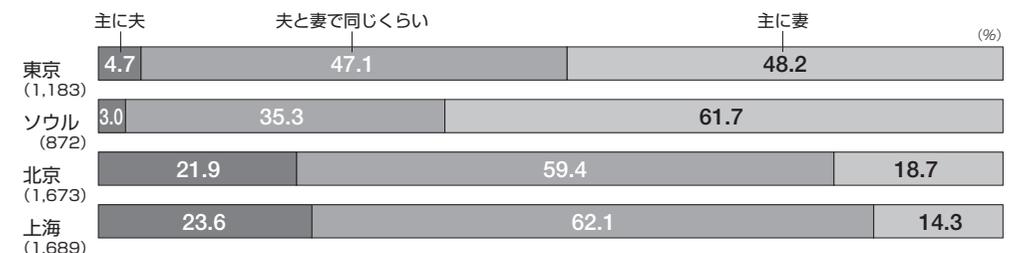
注1)「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-15 ワークブックを選ぶ



注1)「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-16 習い事を選ぶ



注1)「該当しない」回答者は集計母数から除外。
注2) ()内はサンプル数。

第4節

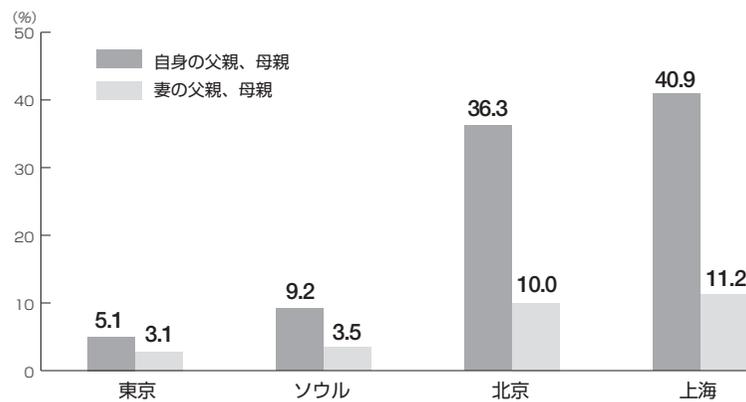
祖父母とのかかわり

◆祖父母と会う頻度は、東京とソウルが「月に1回程度」や「イベントのときだけ」が多く、北京と上海は「ほぼ毎日」や「ほぼ毎週」が多い◆

4都市で祖父母世代とのかかわりはどうか。第4節では夫側の祖父母を「自身の父親」「自身の母親」、妻側の祖父母を「妻の父親」「妻の母親」と記述したい。自身の父親、母親、または妻の父親、母親との同居率を確認しておこう。ここでは、父親（祖父）か母親（祖母）のどちらかと同居していれば、「同居」とみなすことにする。図1-4-1のように、東京とソウルは、同居率が1割に満たなかった。一方、北京と上海では、自身の父親、母親との同居が3割を超えた。

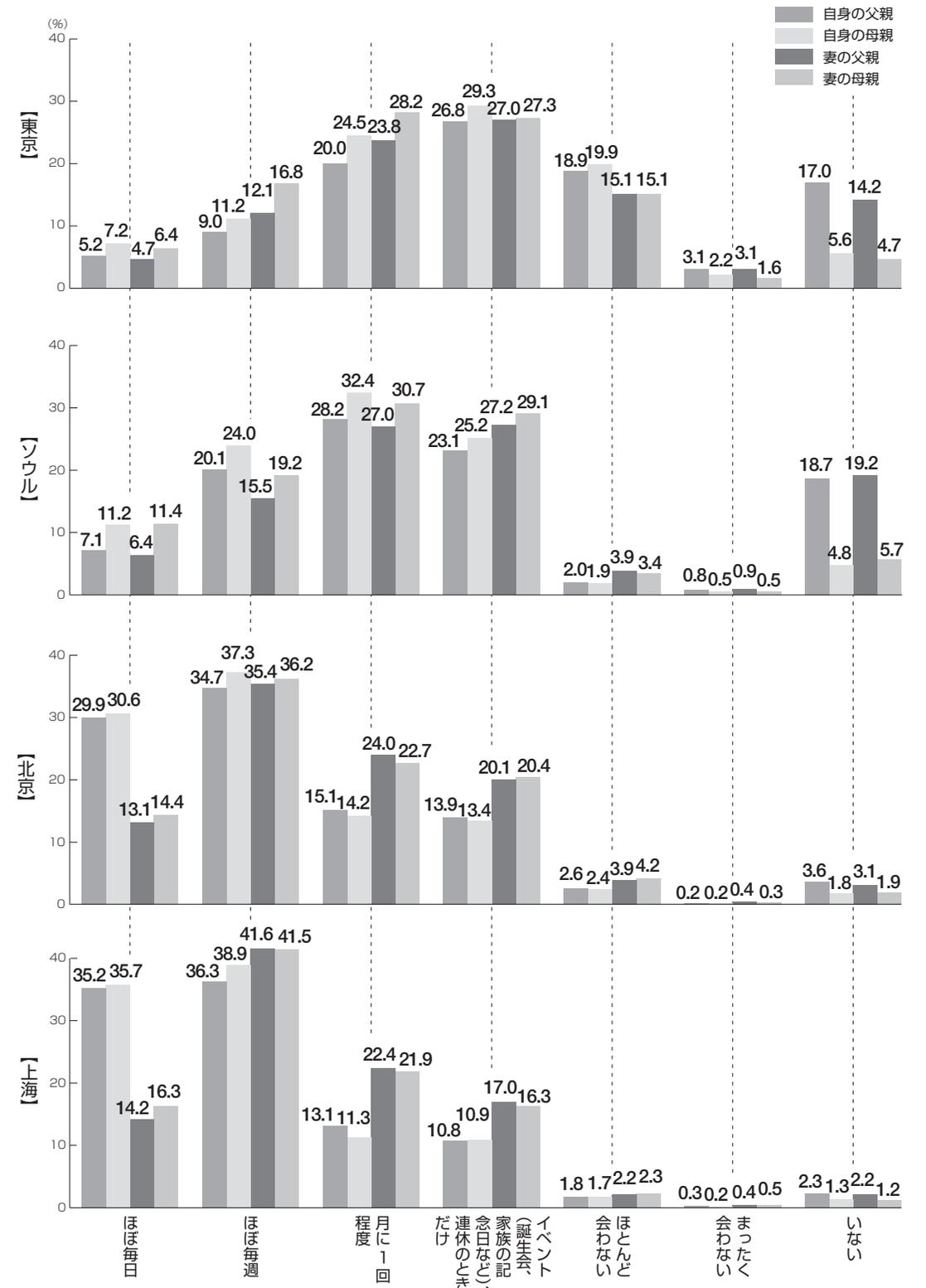
自身の両親、または妻の両親と会う頻度を4都市できいた結果が図1-4-2である。東京とソウルでは、自身の両親とも妻の両親とも、会う頻度は「月に1回程度」「イベント（誕生日会、家族の記念日など）、連休のときだけ」を合わせて4割を超えた。一方、上海と北京では、「ほぼ毎日」と前後している。さらに「ほぼ毎週」も3割以上であり、高い頻度で自身と妻の両親と会っている様子がうかがえた。

図1-4-1 祖父母との同居率



注) 自身の両親または父親か母親のどちらか、または妻の両親または父親か母親のどちらかと同居している%。

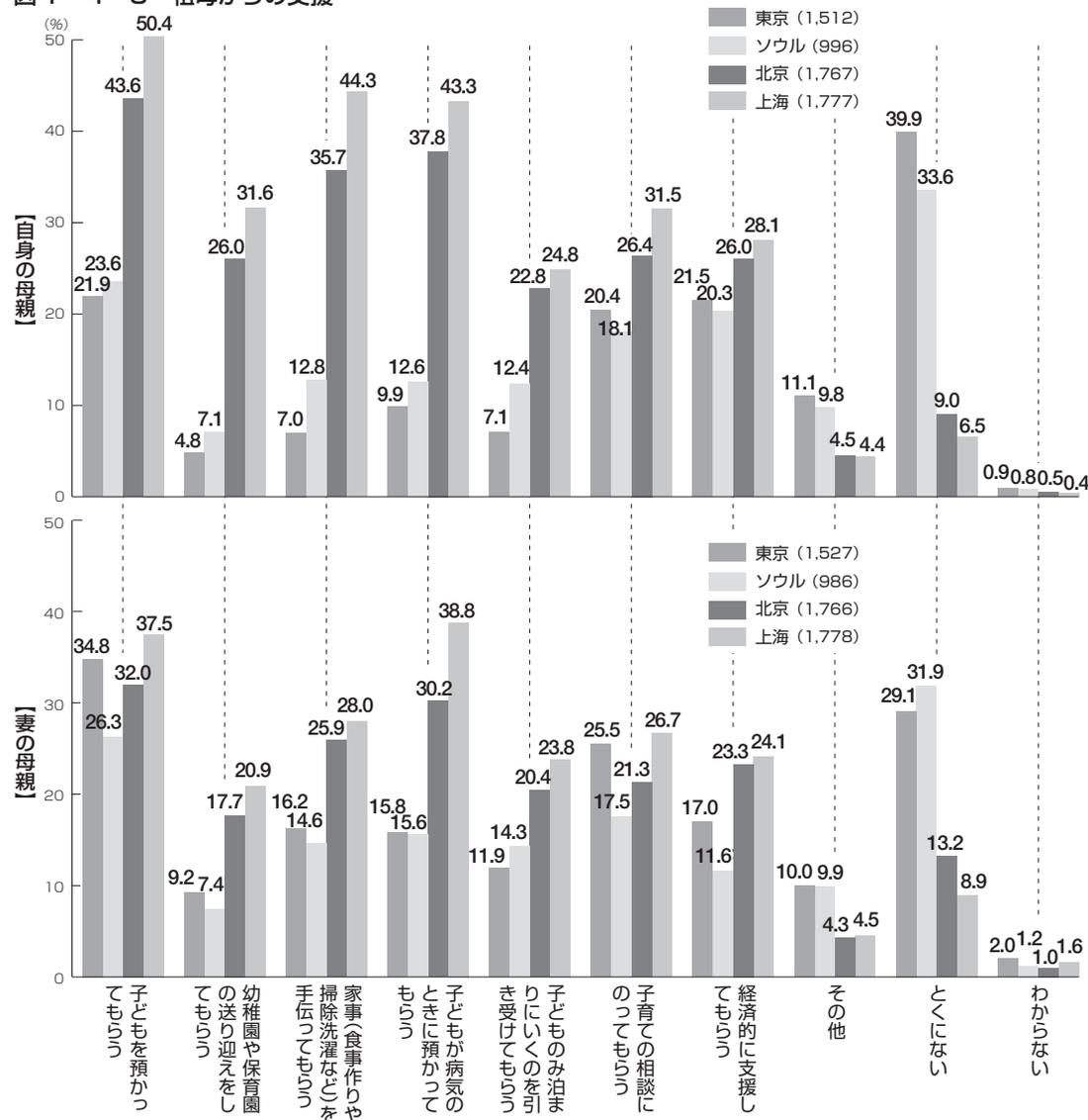
図1-4-2 祖父母と会う頻度



◆どの都市でも、祖母による子育てや家事の支援では、「子どもを預かってもらう」比率が高い◆

自身と妻の母親（祖母）から、どのような子育てや家事の支援を受けているのかを複数回答できいた（図1-4-3）。「子どもを預かってもらう」比率がもっとも高く、東京34.8%、ソウル26.3%（以上、妻の母親）、北京43.6%、上海50.4%（以上、自身の母親）だった。東京では、次いで「子育ての相談にのってもらおう」（妻の母親25.5%、自身の母親20.4%）、「経済的に支援してもらおう」（妻の母親17.0%、自身の母親21.5%）だった。ソウルも東京と似た傾向があり、「子育て

図1-4-3 祖母からの支援

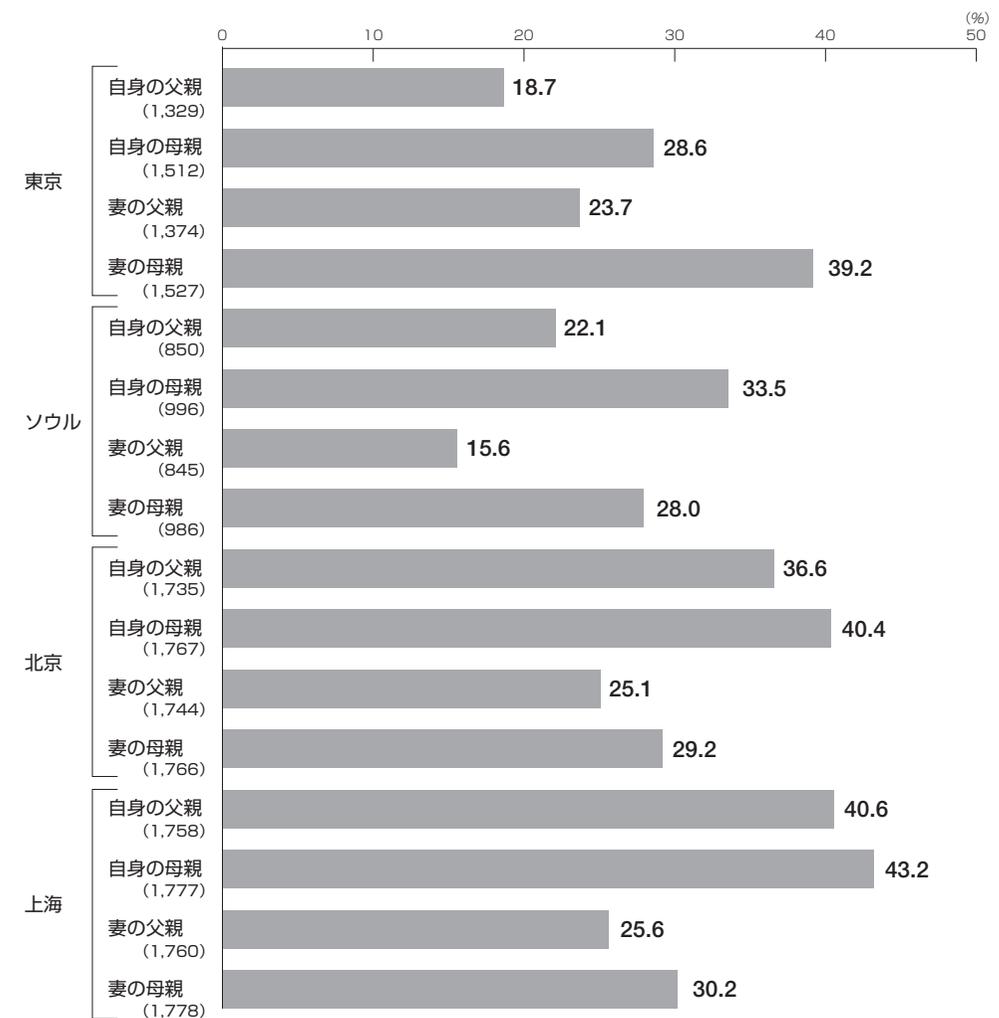


注1) 調査票では、園の名称を各都市の制度に合わせて変更している。
 注2) 自身・妻の親（父親・母親）がそれぞれ「いない」回答者は、集計母数から除外。
 注3) () 内はサンプル数。

ての相談にのってもらおう」「経済的に支援してもらおう」と続いた。北京と上海では、「幼稚園や保育園の送り迎えをしてもらう」や「家事（食事作りや掃除洗濯など）を手伝ってもらう」、「子どもが病気のときに預かってもらう」など、夫と妻それぞれの母親から多くの面で支援を受けていた。自身の親との同居率が高いことも考えると、子育てや家事の手伝いを受けやすい環境にあるのではないだろうか。

東京では、自身の母親よりも妻の母親から支援を受け、頼りにする傾向にあった（妻の母親39.2%）。北京と上海では自身の母親からより多く支援を受け、頼りにする傾向があった。ソウルは、双方の母親に支援を受けているが、親を頼りにする比率は4都市の中でおおむね低い傾向にあった（図1-4-3・4）。

図1-4-4 祖父母は頼りになるか



注1) 「とても頼りになる」の%。
 注2) 自身・妻の親（父親・母親）がそれぞれ「いない」回答者は、集計母数から除外。
 注3) () 内はサンプル数。

◆子育て情報を得たいとき、東京の父親は「妻」が突出。
ソウル・北京・上海の父親は、多様なルートから情報を得ている◆

父親が普段子育て情報を得たいときに誰に頼っているだろうか。人やものについて22～23項目から複数回答で5つまで答えてもらった(図1-4-5)。なお、都市により項目数・内容が異なる。また、本調査はインターネット調査であるため、「インターネット」の数値は参考としたい。

どの都市でも共通していたのは「妻」がもっとも多かったことである。では、それぞれの都市の特徴はどうだろうか。

東京の父親の場合、「妻」82.9%に集中していたことが特徴である。ほかの項目で2割以上だったのは5項目にとどまり、ほかの都市に比べて少なかった。

ソウルの父親は、「妻」66.3%、「自分の職場の友人・知人」37.7%、「自分の親」35.9%、「妻の親」30.4%に加え、「書籍」や「テレビ・ラジオ」などのメディア、「自分のきょうだい」「妻のきょうだい」「小児科医」など幅広く頼っていた。北京と上海は同じ傾向で、「妻」に加え、「自分の親」が4割以上と多く、ほかにも多様な項目を選択した。

◆東京の父親は、子育てを妻や妻の実家に頼る傾向。ソウルの父親は、子育てを妻と担い、同世代のきょうだいも頼りにしている。北京と上海では、父親側の祖父母が子育てにおいての大きな役割を担っている◆

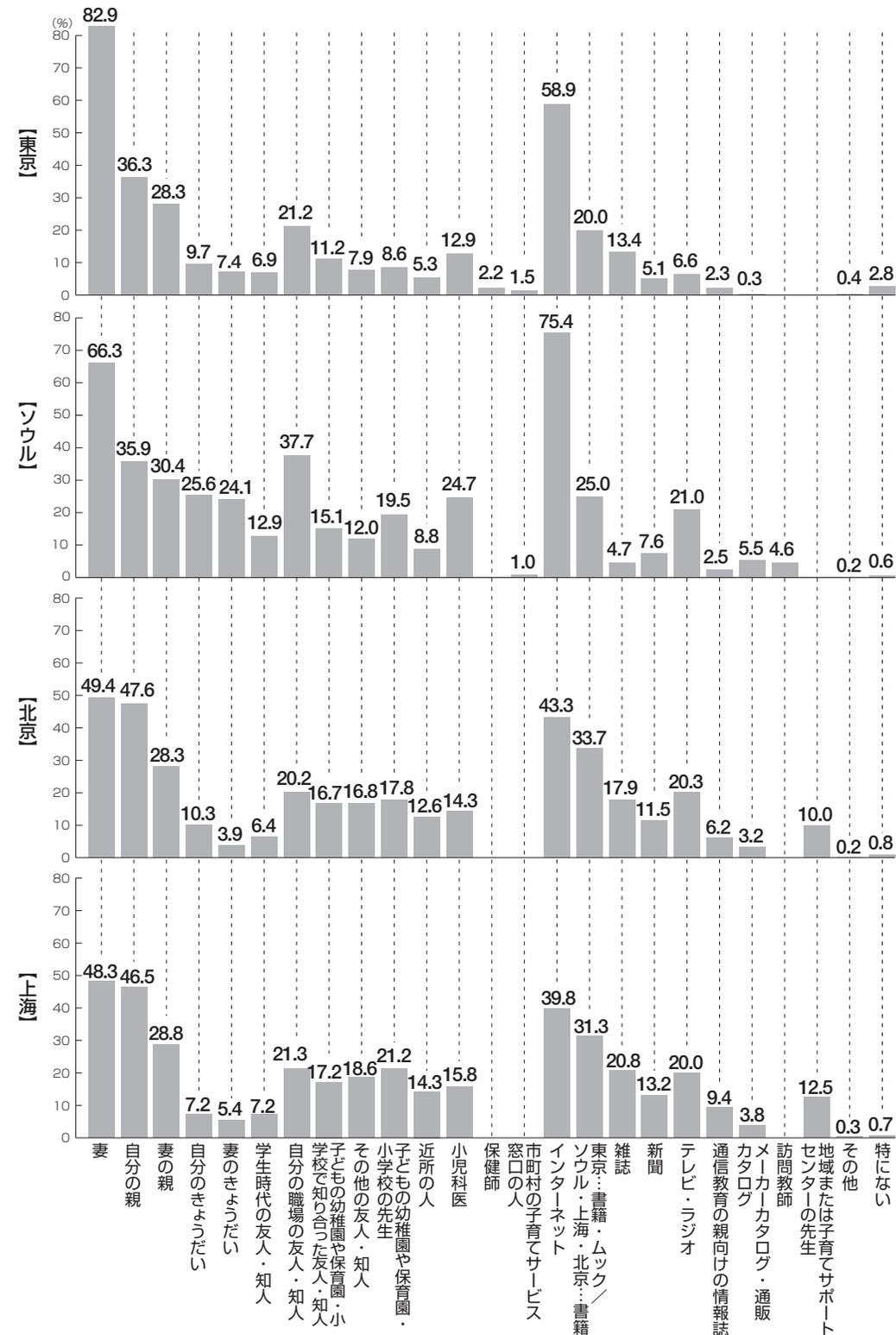
第1章をとおして、父親と子ども・家族とのかかわりをみてきた。各都市の特徴をまとめてみる。

東京の父親は帰宅時間の遅さもあり、平日に子どもと一緒に過ごす時間が少なく、かわりに休日に過ごす時間が長かった。家事を行う頻度は少なく、育児も短時間で集中してできる「お風呂に入れる」「ほめたり叱ったりする」「園の行事に参加する」頻度が比較的高かった。妻とは話すのが、相談は少なく、子どもの身の回りのものや絵本、習い事なども妻が最終決定をすることが多いとの回答だった。子育てを妻や妻の実家をより頼りにしている様子うかがえた。

ソウルの父親は、子どもと一緒に過ごす時間や家事・育児の頻度、身の回りのものなどの最終決定は東京と同様だが、妻に必要とされている意識が高く、祖父母から支援を受けることが少なかった。一方、きょうだいから子育て情報を得ていることが特徴である。

北京と上海の父親は、帰宅時間の早さもあり、平日に子どもと一緒に過ごす時間が長かった。家事や育児を行う頻度が高く、最終決定も妻と同じくらいが多い。また、自分の親と会う頻度が高く、子育てに関してさまざまな支援を受けていた。自分、妻、自分の親それぞれが、子育て中の家族の重要な一員なのだろう。

図1-4-5 父親が子育て情報を得たいときに、頼っている人(もの)



注1) 複数回答(5つまで)。
注2) インターネット調査であるため、「インターネット」の数値は参考。
注3) 「市町村の子育てサービス窓口の人」は東京・ソウルのみ、「保健師」は東京のみ、「訪問教師(「学習誌」などで家庭を訪問してくれる専門講師)」はソウルのみ、「地域または子育てサポートセンターの先生」は北京・上海のみの項目。